

# みどりのこえ

春号  
2014

長野県環境保全研究所

平成26年(2014年)3月28日発行

●飯綱庁舎 〒381-0075 長野市北郷 2054-120 TEL.026-239-1031 FAX.026-239-2929

●安茂里庁舎 〒380-0944 長野市安茂里米村 1978 TEL.026-227-0354 FAX.026-224-3415

URL: <http://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/index.html> E-mail: [kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp](mailto:kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp)

No.48



南アルプス聖平小屋の1987年8月4日(左:坂東明文氏撮影)と2013年8月10日(右:著者撮影)の写真の比較。  
伊勢湾台風により多くの木が倒れたが少しずつ回復しつつある。

## 写真を活用した植生モニタリング

文 下野 綾子

極地である高山帯は、将来の温暖化の影響が最も出やすい生態系の1つだとされています。実際に世界各地で植物群集の変化あるいは動植物の分布標高の上昇等が報告されるようになりました。日本も例外ではありません。例えば、アポイ岳ではハイマツの面積が広がり希少種が生育するお花畑が急速に減少しました。南アルプスでは高山帯にまで登ってくるようになった鹿の食害で植生が変化しています。大雪山五色ヶ原ではチシマザサの分布が拡大しており、融雪時期の早期化に伴う乾燥化が一因だとされています。

こういった生物種の減少や生態系の変化などの兆候を早期に把握するため、NPO法人山の自然学クラブでは中央アルプスの駒ヶ岳周辺で高山植生のモニタリングを行っています。2008年より調査を開始しましたが、一部の調査区では植物の比率(植被率)が増えている傾向が見えてきました。といっても、調査を始めてからわずか5年。長い自然の営みを考えるとあまりにも短い時間

です。また自然現象は年によって大きな変動があります。短期間の結果だけで傾向を判断することはできません。

そこで現地調査に加え、長期間の自然の変化の傾向を知るために、過去に撮影された写真の活用にも取り組み始めました。写真は調査記録に代わる客観的な記録となりえ、過去に撮った写真と最近撮った写真の比較ができれば、植生の変化を検討することが可能となります。公益社団法人日本山岳会自然保護委員会とともに、登山愛好家の方々がお持ちの過去の山岳写真を収集し、それらをデジタル化し、データベースを作成しています(<http://mountain-photo.org/>)。このデータベースにより登山する人みんながユーザーとして山の記録を共有し、また写真撮影を通じてみんなで山を観測できたらと考えています。

(しもの あやこ/筑波大学生命環境系)

### Contents

【巻頭言】 写真を活用した植生モニタリング	1	【特集②】 環境保全に取り組む市民大集合 2013	
【特集①】 公開セミナー 2013		活動発表 協働ですずめる地域の自然環境保全	6-7
10年目の公開セミナー、北と南で大盛況	2-3	基調講演	8-9
信濃町:野尻湖の自然とその魅力	4	【自然ふれあい講座 報告】	10
癒しの森と生物多様性地域連携	4	【シリーズ 植物標本庫から】	11
茅野市:「深山の妖精」からのメッセージ	5	【読書案内】	11
		【平成26年度 学習交流事業のお知らせ】	12